

会議結果概要書

1 会議名	令和2年度第4回名寄市上下水道事業経営審議会
2 開催日	令和3年2月9日(火) 午後6時30分から午後8時20分
3 開催場所	名寄市役所名寄庁舎 4階 大会議室
4 委員	大野会長(○)、山上副会長(○) 橋場委員(×)、関委員(×)、扇谷委員(×)、伊豆倉委員(○)、 木田委員(○)、菊池委員(○)、藤島委員(○)、東委員(×) ※委員10人中6人出席
5 事務局	木村建設水道部長、鈴木建設水道部次長(併上下水道室長兼工務課長)、 藤井浄水場長、池田下水処理場長、大沼下水処理場主幹、 佐藤業務課長、神田業務課主査、阿部業務課主査、外山業務課主査 【外部識者】 北海道大学公共政策大学院公共政策学研究センター研究員 遠藤誠作氏
6 議題等	協議1 水道事業及び下水道事業経営戦略の改定について
7 会議結果	○協議1 水道事業及び下水道事業経営戦略の改定について ・水道事業及び下水道事業経営戦略改定素案についての審議 ※主な質疑・意見等については別紙1のとおり

令和2年度第4回名寄市上下水道事業経営審議会 主な質疑・意見等

○協議1 水道事業及び下水道事業経営戦略の改定について

問 自衛隊への給水が令和6年からとなるのはなぜか。

答 自衛隊の予算が関係するため、例えば名寄市の予算があるからつなげることにはならず、自衛隊でも毎年国へ予算要望はしており、結果はまだですがそれが通れば、最短で令和6年ぐらいにはつながるのではないかとという予測です。

問 自衛隊は宿舎を新しくしたり組織が変わりつつあり駐屯地が変わってきていると思うが、水道水の使用が増えていく話も聞いている。生活する場合の水道水は今の施設で充分なのか。

答 水道水の使用が増えるので給水の時期を早くするという回答は頂いておりません。

問 経営戦略の策定は総務省から全国に通達されたと思うが、国からの助成金は各市町村に交付されているのか。

答 経営戦略を策定するための補助金はありません。しかし、下水道施設整備等の交付金事業では経営戦略策定が要件となっており、策定していないと交付金が見つからないことになります。

問 経営戦略により事業を行っても、収入減や施設の老朽化でいずれ水道料金の値上げはやむを得ないことになると思う。市民としては水道料金は上がってほしくないと思うが、近隣の市町村と比べて名寄市がどのくらいの位置に推移しているのか参考に教えてほしい。

答 経営戦略には他の市町村と比較して名寄市がどのくらいの位置かの記載はありませんが、料金を改定したときに示した資料では、料金を改定する前は全道の市の中では中間くらいとなっています。その後料金を改定し3～4番上がっています。

問 機械や施設の耐用年数によって水道料金が決まっていくと思うが、一度にたくさん料金を上げるわけにもいかないと思う。機械や施設はいつまで耐えられるのか。民営化や業務委託すると市で経営するより料金が少し上がるのか。

答 水道については、今現在収入の見込みとして、大口需要家の撤退により約2千万円の減収、自衛隊の給水開始年度も令和6年度としていますが確定ではありません。料金改定の計算では、5年間の収支に見合うように平均11.02%上げましたが、次の5年間どれだけの料金が必要なのか改めて計算し、考える時期が2～3年のうちにあります。収入の見込みと必要な工事の費用により計画を立てており、いつ、何パーセント上げるかをこの計画に盛り込むことはできません。

下水道については、水道と違い、補助金があったり雨水の処理は市の負担であり、トイ

レなど家庭で流す汚水の処理費用を使用料で賄うこととなっており、収入は使用料だけではありません。会計方式が変わって減価償却費など厳密に計算ができる状態になったため、それも含めて2～3年のうちに考える時期が来ますが今の段階では判断はつきません。

今回の経営戦略改定は目標であり、仕事の進め方についての計画となっています。

問 5年経つと見直しの必要性があるとのことだが、4年目や5年経たずに赤字になった場合、市は補填するのか。赤字持ち越しなのか。

答 市からの補填はありません。流動資産（現金）を保有しており運転資金を確保していますのでゼロにはなりません。料金改定をしたときの目標値としては、当時は5億円弱の現金を保有しており、4億円を下らないような料金の設定を考えました。今回の計画では、4億円を下ることはないため持ちこたえられると思いますが、令和6年度から事業費が膨らんでいきますので令和4年後半か5年に入る前に審議いただかなければならないと考えています。

意 前回の水道料金改定の時も審議会で検討しながら改定額を決定してきた。消費税分の転嫁についても、皆さんの理解があって進め、下水道使用料は現状で問題ないと判断してきたので、検討時期がきたら、そういう形でやっていければと思う。

意 心配なのは、今27,000人の人口で、王子マテリアが撤退してそれに関わる家族等人数が減るが、減収を見込んでこの5年間持ちこたえてもらえれば。内部で持っているお金がゼロになってはいけないので6年度以降はどうなるのか、機械の更新を考えると頭が痛い、持ちこたえて職員の皆さんに頑張ってもらいたい。

意 不特定なことが発生したので次の5年に向けて知恵を絞って、審議会の中で市民に納得いただけるような形に持っていきたい。名寄市民が安心して水が飲める生活ができる、このためには不満もあるだろうが、意見を参考にしながら、戦略をみながら決めていければと考えている。これからは非常に厳しくなるというのが実感。

意 市独自で運営していかなければならないので、他市町村を参考にはしても、料金を比べる必要がないということが分かった。策定して5年やって収入が増えることはないと思感するので、この先一度に上げるよりは少しずつでも上げていき、後々足りないときにどうしようとか、変わった時に対応できるように余力のある感じでできれば、日々の生活、くらしに堪えないくらいの幅で値上げするのであれば仕方ないと思う。

問 人間が生活していく上で水が大事。職員の人数がこれで適正なのか。50代の人が少ないし、あとに続くよう、年配の人が若い人を指導していくことが必要だと思う。職員の適正な配置が必要ではないかと思われるが、今後どのような形で進めていくのか。

答 委託を含めてあらゆる可能性を探りながらどれが一番いい方法なのか、状況の変化を

考えながら検討していきます。

問 民間委託は安くなるのか。

答 場合によって異なり、委託の範囲も小さい範囲なのか大きく全体的なのかにもよります。それも含めて検討していかなければならないと考えています。

意 安心安全な水を供給してもらうための最低ラインとして、毎年上がることなく最低5年は職員の努力によって維持できるような金額ということで改定した。今回も3年後には、安全な水を届けてもらうためにそれに応じた検討が必要。

すべて民間委託をするのは、料金を上げるより市民は不安である。今は名寄市民が安心して任せられる水を飲んでいるが、これが民間となるとどうなるのか、料金改定だけではなく、安全な水が飲ませてもらえるのか。50代の技術者がいないので10年間かけて技術者を育てていただきたい。

意 将来的に委託をするかしないのか、市の考えは最終的にどうなのか。5年間はいいが委託は不安であり、市の職員が専門職として人材を育てて受け継いでいく、委託をさけたいという要望を審議会の中で検討してはどうか。

(外部識者)

民間委託については、民間が、いい加減な仕事をするわけではなく、仕事の責任は果たすが委託して今より手間が減ることはないということです。水道と下水道は企業として運営しなければならず、全体の収入と支出に合うように調整する必要があります。すべての業務を民間に渡し、決算だけで判断できるのか、更新工事が必要なのに先送りし、資本コスト、施設にかかるコストを半分くらいにして修繕の必要があるのに受託業者が行わず、修繕が必要という報告により運営していくと予算の管理ができなくなります。機械が壊れているかを見分ける、判断ができる職員を育てることが必要で、民間は責任は果たすが経営という視点で見たときに運営できるかどうかは別ということを考えていただきたいと思います。

事務局

経営戦略は毎年審議会に進捗管理をしていくので、皆さんに反映できるように情報の提供はしていきたいと思います。